

週刊 読書人

発行 株式会社読書人
発売 不二出版(株)

〔縮刷版〕

第一期 全九巻

第一期内容

一九四九(昭和二四)年～一九六五(昭和四〇)年

第一期本体揃価格

二五二、〇〇〇円

第二期 全九巻

第二期内容

一九六六(昭和四一)年～一九七四(昭和四九)年

第二期本体揃価格

二五二、〇〇〇円

第三期 全九巻

第三期内容

一九七五(昭和五〇)年～一九八三(昭和五八)年

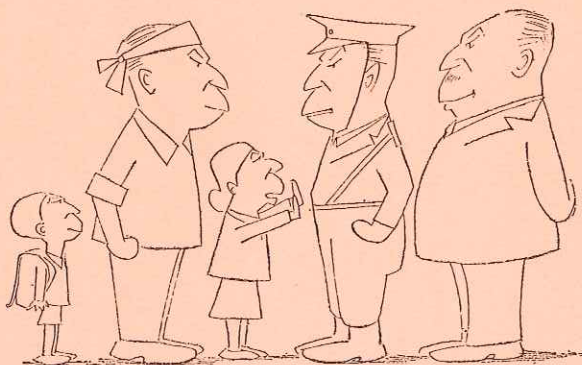
第三期本体揃価格

二五二、〇〇〇円

泰三書評

石川 達三著

人間の壁



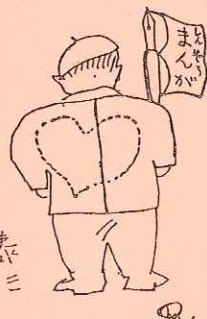
同胞の壁 横山泰三

一年余にわたる連載小説を「一冊」にまとめた。この一冊は、泰三氏の心臓の強さがある。心臓が、短編から外へはみ出しているような男だ。

感想

石川 達三

で見る。母親は先生をばうて、壁の前で横になっている。文相としては腹が立つだろう。子供も教師のうしろについている。要するに政府官庁の味方は誰もいない。ところで、この書評と教師との壁、前巻三〇円・新巻巻



泰三氏像

石川 達三画



石川 達三氏

戦後の
出版文化界を俯瞰した
書評紙！

全3期(一九四九～一九八三年)完結

文化・思想の歴史の第二次資料

（東京経済大学教授・コミュニケーション学）

世に文化、思想、知識という仕事の分野は確かにあるが、私は、文化人、知識人といわれるよりも、「読書人」とされる方が好みに合っている。だから長い間、『週刊読書人』を愛読している。

考えてみると、日本には「文学新聞」もなければ、文化や思想学問について報道する専門的な新聞もない。それを代行しているのが書評紙だと思う。どの時代や時期に、どんな本が出たかということは、たしかに、その時代や時期の文化や思想状況の所産である。出版物の生れた跡をたどれば、戦後日本の文化や思想の歴史を知ること出来る。

ところが、『週刊読書人』は、書評や新刊物の紹介、雑誌の目次案内などの読書に関するニュースや情報だけでなく、その時期を代表する文化や思想にたずさわる人たちの動向、団体の盛衰などへも、実に丹念に取材している。まさしく、文化、思想、学問の歴史をひもとく上での第一次資料がこの新聞の中にある。

一読書人であり続けたいと思っている私にとって、戦後史を読む資料として、
 こんごとも大事にしてゆきたい。

ゆるやかな文化の流れ

評論家・作家

わたしが『週刊読書人』にはじめて原稿を書いたのは、一九七一年一月である。あれからもう四半世紀たつ。『週刊読書人』の歴史が三八年というから、ちょうどその三分の一を付き合っているわけである。

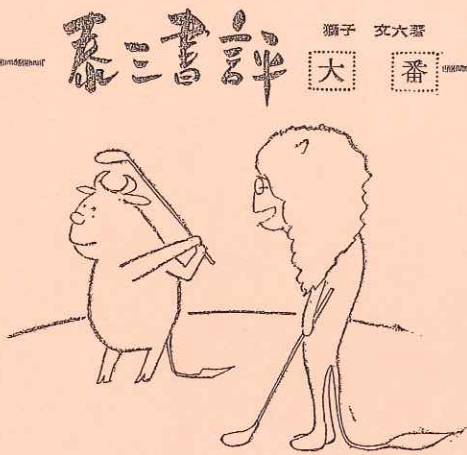
その年月のあいだに、書評であれ、エッセイであれ、対談であれ、わたしが

『週刊読書人』の原稿依頼を断つたのは、たぶん一度だけである。それも、どうしても時間的余裕がない、という理由からだった。

『週刊読書人』の原稿依頼のしかたは、どちらかというと、筆者寄りということがいえるかもしれない。つまり、いま社会がなにを求めているかとか、なにが思想的に

流行しているかといった趣旨からの原稿依頼ではなく、あなたが書きたいものの、批評したいものなのか、といったアプローチなのである。

そのことから考えれば、『週刊読書人』は書評紙誌のなかでも、まさしく読書人の趣味を主にし、そのことによってゆるやかな文化の流れをかたちづくってきたのではないか、という気がする。



キューちゃんあたる 横山 泰三

感想
獅子文六

この画は「大番」完結記念ゴルフ大会の際の二コマをかいたものと考えられるが、ライオン氏が非常にスマートな姿をしている。恐らくライオンの羽左衛門（先代）といつどこかで、まったくわが意を得ている。

泰園に對するは生のゴルの弟子であらう、師に對する礼をさうしたのかも知れない。小生は團圓に對して、出資費のうちものを贈つたことがあつた。それは彼の土産は多く、團圓の間に師匠に放たれたのであつたが、それも度得を得た團圓であつた。度得とは二つ、指導者とされる團圓のことで、アメリカのゴルの本にも、先達の口出しは恐ろしきものなしと書いてある。小生は度得の團圓だつた。『じふんづ』氏(作者)「『番』」「雲の巻」「風の巻」「竜の巻」各八〇頁・新潮社。

出版物をとおして
時代と社会を伝える情報源の集大成

（前社）日本図書館協会理事長

さまざまな質をともしなう多様な出版物の生産と流通は、その時代と社会の政治・経済・文化の投影、豊かさを示す指標の一つ。これを支え、生み出す基盤でもある。それ故に注目すべき出版物の背景と出版界の刻々の動きを読者に伝える書評紙の存在は、時代を語る貴重な情報源となっている。

出版界の未来を考える有効な素材

（株）読書人顧問

『週刊読書人』は、昭和三年五月に創刊され、平成一〇年には創刊四〇年を迎える書評新聞である。『週刊読書人』は最初、日本書籍出版協会発行の機関紙として創刊され、昭和三年に株式会社読書人として独立したもののだが、創刊以来、一貫して日本の出版界を代表する書評新聞として、公正な書評を行い、さらに出版界や学術・思想・文化の動向などについても幅広い論評を行ってきた。その意味で『週刊読書人』は単なる書評新聞ではなく、知的読者を対象とした週刊クオリティ・ペーパー（高級紙）としての役割を果たしてきたといつてよい。

その『週刊読書人』の縮刷版が、このほど不二出版から刊行されることになり、慶賀にたえない。私は、日本書籍出版協会理事長時代に、株式会社読書人の社長として、長年にわたつてこの新聞に関わりをもってきたが、そういう立場を超えても、長い歴史を持つこの『週刊読書人』が、図書館をはじめ、本を愛する人々に広く受け入れられることを切望するものである。

また、このたびの縮刷版では、『週刊読書人』の前身ともいふべき全国出版協会発行の『読書タイムズ』等も収められ、日本書籍出版協会が創立される以前の出版界の状況を伝える記事も掲載されており、出版界の人たちにとつても、戦後の出版史を知るための貴重な資料となるであらう。

多様に変化しつつある昨今、過去を知るだけでなく、問もなく二二世紀を迎える出版界の未来について考えるための、有効な素材となることは確かである。



「あなたが全然英雄なのよ読んでごらんさい」

橫山泰三

感想

[illegible]

石坂 洋次郎著

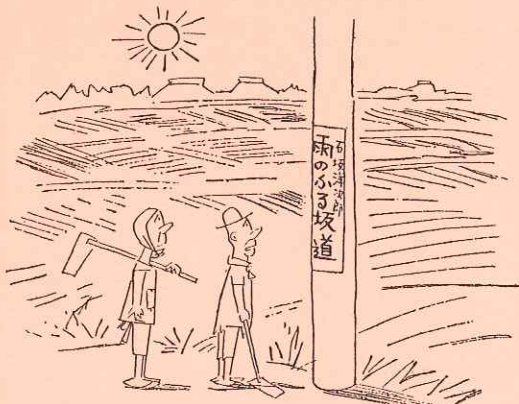
陽のあたる坂

いかすでねえかよう

横山泰三

感想

石坂洋次郎



は、はじめあま目信がなかつたのだが、本が少しづつと飛れ、映画が太刀切したところへ、あればそれで十分という持になった。

泰三さんの側面では、お目玉さんさんが、雨のある敷置、というボクスターを眺めて、「いかそねえか」と、を睨んでいる。どうも、金持のたゞと息子や子と娘の話をよめる。庶民の心の糧になる地味な小説を書きなさいと風刺されているように、愛憎している。

しかし、そんな小説が書けるどころでも、今度生れつつてからの話へ、いまの私には到底読解できるものない。

泰三さん、すみません。

(いざやん、まじやう氏作家)

「『闇のあたゝき牧道』二十八円・講談社」

圖書新聞
〔第二期〕

● 関連復刻版のご案内

全九卷・別冊一

●第一号↓第五三二号、一九四九年～一九五九年

●別冊＝解説(矢口進也)・記事・執筆者・書評索引〔別冊のみA4判〕

●B4判・上製・総三、五六六ページ

●本体揃価格＝二三四、〇〇〇円〔別冊のみ分売可＝一八、〇〇〇円〕

●全四回配本（一九八九年五月～一九九〇年二月配本完結）

第四回配本 別冊	第三回配本	第二回配本	第一回配本	第一卷	●発行年月 一九四九・五〇年	●号数 一七六	●ページ数 二二八	本体価格 七二、〇〇〇円
				第二卷	一九五一・五二年	七七・一七五	四二四	●発行年月 一九五一・五二年
				第三卷	一九五三年	一七六・二二六	二七二	●号数 二七二
				第四卷	一九五四年	二二七・二七七	二九四	●ページ数 二九四
				第五卷	一九五五年	二七八・三三八	三一八	●発行年月 一九五五年
				第六卷	一九五六年	三二九・三七九	三六八	●号数 三六八
				第七卷	一九五七年	三八〇・四三〇	四〇四	●ページ数 四〇四
				第八卷	一九五八年	四三一・四八一	四一二	●発行年月 一九五八年
				第九卷	一九五九年	四八二・五三二	四一六	●号数 四一六
				記事索引・執筆者索引・書評索引				解説〔矢口進也〕

圖書新聞
〔第二期〕

全九卷・別冊一

●第五三三号↓第九九三号、一九六〇年～一九六八年

●別冊Ⅱ記事・執筆者・書評索引〔別冊のみA4判〕

●B4判・上製・総四、二四二ページ

●本体揃価格＝二三四、〇〇〇円〔別冊のみ分売可＝一八、〇〇〇円〕

●全四回配本（一九九〇年五月～一九九一年二月配本完結）

第一回配本	第一〇卷	一九六〇年	五三三	五八四	四三六	本体価格 七二、〇〇〇円
	第一卷	一九六一年	五八五	六三五	四〇八	
	第二卷	一九六二年	六三六	六八六	四一六	
	第三卷	一九六三年	六八七	七三七	四一八	
第二回配本	第四卷	一九六四年	七三八	七八八	四三八	本体価格 七二、〇〇〇円
	第五卷	一九六五年	七八九	八三九	四四四	
	第六卷	一九六六年	八四〇	八九〇	四五二	
	第七卷	一九六七年	八九一	九四一	四二二	
第三回配本	第八卷	一九六八年	九四二	九九三	四二八	本体価格 七二、〇〇〇円
	別冊	記事索引＋執筆者索引＋書評索引	三八〇			
第四回配本	別冊	記事索引＋執筆者索引＋書評索引	三八〇			本体価格 一八、〇〇〇円

●発行年月 ●号数 ●ページ数

圖書新聞
〔第三期〕

全十卷·別冊一

●第九九四号↓第一五〇二号、一九六九年～一九七九年

●別冊Ⅱ記事・執筆者・書評索引〔別冊のみA4判〕

●B4判・上製・総四、五〇六ページ

●本体揃価格＝二五八、〇〇〇円(別冊のみ分売可＝一八、〇〇〇円)

●全四回配本（一九九一年五月～一九九二年二月配本完結）

第一回配本	第一九卷	一九六九年	九九四・一〇四三	四・〇四	●発行年月
	第一〇巻	一九七〇年	一〇四四・一〇九三	四・一〇	●考数
	第一一巻	一九七一年	一〇九四・一二四三	四・一八	●ページ数
第二回配本	第一二巻	一九七二年	一二四四・一二九三	四・一〇	
	第一三巻	一九七三年	一二九四・一二四三	四・〇四	
	第一四巻	一九七四年	一二四四・一二九三	四・〇四	
第三回配本	第一五巻	一九七五年	一二九四・一三三三	四・八四	
	第一六巻	一九七七年	一三五四・一四〇三	四・一〇	
	第一七巻	一九七八年	一四〇四・一四五二	四・〇八	
第四回配本	第一八巻	一九七九年	一四五三・一五〇二	四・二〇	

別冊 記事索引・執筆者索引・書評索引 三三四 本体価格 一八、〇〇〇円

圖書新聞
〔第四期〕

全九卷·別冊一

●第一五〇三号↓第一九三九号、一九八〇年〜一九八八年

●別冊Ⅱ記事・執筆者・書評索引（別冊のみA4判）

●B4判・上製・総三、九八〇ページ

●本体揃価格＝二四五、〇〇〇円(別冊のみ分売可＝二〇、〇〇〇円)

●全四回配本（一九九二年五月～一九九三年二月配本完結）

第四回配本 別冊 記事索引・執筆者索引・書評索引 四〇〇 本体価格 二〇〇〇円	第三回配本 第三七卷 一九八七年 一八九二 一九三九 三九四 本体価格 七五、〇〇〇円	第三回配本 第三六卷 一九八七年 一八四四 一八九一 三九〇 本体価格 七五、〇〇〇円	第三回配本 第三五卷 一九八七年 七九六 一八四三 三八八 本体価格 七五、〇〇〇円	第三回配本 第三四卷 一九八五年 七四八 一七九五 三八六 本体価格 七五、〇〇〇円	第三回配本 第三三卷 一九八四年 七〇〇 一七四七 三九〇 本体価格 七五、〇〇〇円	第二回配本 第三二卷 一九八三年 一六五一 一六九九 四〇二 本体価格 七五、〇〇〇円	第二回配本 第三一巻 一九八二年 一六〇二 一六五〇 四〇四 本体価格 七五、〇〇〇円	第二回配本 第三〇巻 一九八一年 一五五三 一六〇一 四〇四 本体価格 七五、〇〇〇円	第二回配本 第二九巻 一九八〇年 一五〇三 一五五二 四二二 本体価格 七五、〇〇〇円
--	--	--	---	---	---	--	--	--	--

卷之三

武田 泰淳著

森と湖のまつり



北海道で西部劇 横山泰三

感想

武田泰淳

いたことがある。大ばかりでなく、大陸では黒毛の豚に、スポンを噛みやふられたものだ。

今國の如く、やがては、
 ④に按察使の役でないことが、すべからぬ。この給のママ
 は、大抵と云、タスキに似てゐる。タスキがタスキに染ま
 る、どちが何に染まうか其のたが、はくの白にて、細
 裏料では、ムシガ、トモロコシを食へば、タスキもムシ
 なども、毛らも、肉のうま味と、毛皮のよい鱗をあらわ
 する、わいの、あはれ人間がされたものだ。たまたま
 民井氏作(「雲を顔のうつろ」三七〇頁・新潮社)

週刊読書人

第一期全九巻——刊行概要

●体裁

B4判 上製 総三六〇二ページ

●本体摘価格

二五二、〇〇〇円

●全三回配本

第一回配本 一九九六年五月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3184-9

●発行年月

第一巻 昭二四・六 三三・四 一一二二二

●号数

●ページ数

二二二二

第二巻 三三・五 一一二二二

二二二二

第三巻 三三・四 一一二二二

二二二二

第二回配本 一九九六年九月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3184-1

第四巻 三五・一 一一二二二

二二二二

第五巻 三六・一 一一二二二

二二二二

第六巻 三七・一 一一二二二

二二二二

第三回配本 一九九六年二月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3192-X

第七巻 三八・一 一一二二二

二二二二

第八巻 三九・一 一一二二二

二二二二

第九巻 四〇・一 一一二二二

二二二二

第二期全九巻——刊行概要

●体裁

B4判 上製 総三八七六ページ

●本体摘価格

二五二、〇〇〇円

●全三回配本

第四回配本 一九九七年五月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3196-2

●発行年月

第一〇巻 昭四一・一 二二六〇七 六五六 四一六

●号数

●ページ数

二二六〇七

第一巻 四二・一 二二六〇七 七〇六 四二〇

二二六〇七

第二巻 四三・一 二二七〇七 七五六 四二八

二二七〇七

第五回配本 一九九七年九月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3204-4

第一三巻 四四・一 二二七五七 八〇六 四二四

二二七五七

第一四巻 四五・一 二二八〇七 八五七 四三六

二二八〇七

第一五巻 四六・一 二二八五八 九〇七 四三四

二二八五八

第六回配本 一九九七年二月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3204-7

第一六巻 四七・一 二二九〇八 九五八 四三四

二二九〇八

第一七巻 四八・一 二二九五九 一〇〇 四五〇

二二九五九

第一八巻 四九・一 二二一〇二 一〇六 四三四

二二一〇二

第三期全九巻——刊行概要

●体裁

B4判 上製 総四、〇四六ページ

●本体摘価格

二五二、〇〇〇円

●全三回配本

第七回配本 一九九八年五月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3208-X

●発行年月

第一九巻 昭五〇・一 二二二〇六 二二二 四三四

●号数

●ページ数

二二二〇六

第二〇巻 五一・一 二二二〇六 二二二 四五六

二二二〇六

第二一巻 五二・一 二二二〇六 二二二 四五六

二二二〇六

第八回配本 一九九八年九月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3212-9

第二二巻 五三・一 二二二〇六 二二二 四四八

二二二〇六

第二三巻 五四・一 二二二〇六 二二二 四四六

二二二〇六

第二四巻 五五・一 二二二〇六 二二二 四四八

二二二〇六

第九回配本 一九九八年二月発売 八四、〇〇〇円

ISBN4-8350-3216-0

第二五巻 五六・一 二二二〇六 二二二 四五六

二二二〇六

第二六巻 五七・一 二二二〇六 二二二 四五六

二二二〇六

第二七巻 五八・一 二二二〇六 二二二 四五六

二二二〇六



●紙名の変更

『全国出版新聞』 第一号 第二〇〇号

『読書タイムズ』 第一〇一号 第二二二二号

『週刊読書人』 第二二三号

発行 株式会社 読書人

発売 不二出版(株)

東京都文京区向丘一 二二二 二二二 二二二
電話 〇三 三八二 二二二 二二二
FAX 〇三 三八二 二二二 二二二
振替 〇〇一六〇二一九四〇八四

表示価格は、全て税別